

令和 7 年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年度当初目標

中間評価（9月末実績）

年度末確定評価

施設名 埼玉県立自然の博物館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト（自己点検表）

II 目標や方針の設定

- 1 中期的な目標や方針及びそれに関する取組の設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組の概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

埼玉県立自然の博物館の使命について

県立自然と川の博物館は、自然及び川と人々の暮らしとの関わりに関する資料の収集・保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図り、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する博物館です。

自然の博物館は、「過去から未来へ埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、自然資料を収集・保管し、調査研究して将来へ継承し、情報を発信します。

また、学習を支援して、自然に関心を持つよう人材を育成し、様々な人との連携・交流を進めます。

さらに、川の博物館と連携し、県内唯一の自然系総合博物館として、秩父地域から埼玉全域へと視野を広げ、県民の皆さんとともに考え行動しながら、旺盛な博物館活動を展開していきます。

- 1 自然史資料を収集・保管し、調査研究して、将来へ継承します（データバンク機能）
自然史分野を総合的に扱える県内唯一の博物館として、埼玉の自然とその変遷に関する生物・岩石・化石資料、自然と人との共生に関する資料を収集・整理・保管します。

また、これらの資料を調査研究し、埼玉の自然について明らかにしていくとともに、資料価値を高め将来へ遺します。

- 2 資料を活用し、多彩な情報を発信します（情報発信機能）
「過去から未来へ 埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、展示や教育普及活動などを通じて、県民をはじめとする広範な人々へ情報を提供します。
利用者の多様なニーズに合わせ、自然に親しむための情報や調査研究に基づく学術情報など、魅力的な情報を発信します。

- 3 学習を支援し、自然に関心をもつ人材を育成します（学習支援・人材育成機能）
学校や社会教育施設、地域社会を対象に、地域の自然や館有資料を活用した体験学習を推進・支援します。これらの体験学習や展示を通じて、人々の知的好奇心を刺激し、自然に関心をもつ人材の育成に貢献します。

- 4 様々な人々と連携・交流を進めます。（連携・交流・啓発機能）
自然に関心をもつ個人、地域社会、関係機関・諸団体と連携・交流を進めます。
こうしたネットワークを少しずつ広げながら、人・もの・情報が集まる博物館とすることにより、相互のレベルアップを図っていきます。

2 現状分析と課題の抽出

1 資料の収集・整理・保管

ア 令和2年度から「館有資料所在点検実施計画」に基づき収蔵資料点検を計画的に実施しているが、従前の計画では、全資料の点検終了までに長期間を要するため、重点化を図り迅速に取り組む必要がある。

イ 現在、自然系標本を積極的に収集してきた世代が高齢期を迎えており、学術的価値を有するコレクションの寄贈申出が多い状況にある。

新規資料を受け入れるためには、効率的な収蔵方法を検討するなど、収蔵スペース確保に取り組む必要がある。

2 資料を活用した情報発信

ア 生物系資料についてはGBIF等を通じて資料のデータベースを公開してきたが、取組が不十分である。

イ 資料のデジタルアーカイブ化に十分に取り組めていない。

ウ 学説の変化や新収集資料を反映させた常設展示更新を計画的に進める必要がある。

3 学校教育との連携

ア これまで出張授業や体験学習支援を積極的に行ってきたが、学校からのニーズに十分応える体制が整備できていない。受入方法や体制を見直す必要がある。

イ 学校授業で活用できるコンテンツ（動画・貸出用標本等）開発など、新たな学校教育支援の在り方について検討する必要がある。

4 調査研究の充実

ア 組織的に行う総合的調査研究を行い、埼玉県其自然情報や標本を充実させる必要がある。

イ 博物館業務の多様化に伴い、基礎的調査研究に係る時間が充分確保できていない。

3 チェックリスト（自己点検表）

（1）全館共通項目（令和7年9月30日現在）

		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取組みが不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	3	
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	3	
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3	
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	2	R9年度までの計画に基づき実施しており、今年度分は完了見込み。
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	3	
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか	2	R9年度までの計画に基づき実施しており、今年度分は完了見込み。
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか	3	
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3	
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化（画像を含めた）に取り組んでいるか	2	資料画像化方針に基づき実施、今年度分は完了見込み。
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3	
	② 常設展示は定期的に更新しているか	2	一昨年度更新計画を作成したが、具体化が課題。
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	3	
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3	
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか（参加申込方法・プログラム内容・サポート体制等）	3	
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3	
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3	
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3	

情報発信	①	SNS 等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	②	資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③	定期的にも内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④	デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	3	
県民との協働・地域連携	①	ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	②	ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③	外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④	地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤	地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	3	
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法（著作物、展示、講演、研究発表等）で公開しているか	3	
施設・アメニティ	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取組がなされているか	3	
	⑤	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	3	
	⑥	展示室内の安全性の確保（監視員の配置・監視カメラの設置等）に努めているか	3	
施設の活用	①	施設利用のための情報を公開しているか	3	
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

(2) 館別独自項目（令和7年9月30日現在）

		未実施、又は取り組まれていない	1	
		実施しているが、取組みが不十分	2	
		実施、又は達成している	3	
項目	チェック内容		達成度	課題等
資料の保存・管理	①	新規登録資料について適切に保管されているか	2	収蔵スペースの確保が課題 第1収蔵庫について、令和9年度までに資料の配置換え計画を具体化していく。
	②	資料のデータベースが適切に作成・管理されているか	3	
	③	未整理資料について整理を進めたか	2	資料を整理する時間の確保が課題。
特別展・企画展 事業の実施	①	目標・狙いを明確化した中・長期的な展示計画（川博の特別展企画含む）を策定し特別展・企画展を実施しているか	3	
	②	年間又は中期的にみて、幅広い年齢層やニーズを持った来館者が楽しめる内容になっているか	3	
	③	従来の資料のほか新しい資料など広い範囲の資料を活用しているか	3	
自然分野をテーマにした学習支援事業	①	体験を通じて自然を学ぶプログラムを取り入れているか	3	
	②	実物資料等を活用した学習支援プログラムを取り入れているか	3	
	③	多様な県民のニーズに応えられるプログラムを実施しているか	3	
	④	博物館や県内の自然遺産を活用したプログラムを実施しているか	3	
県立自然系博物館としての活動	①	県立自然系博物館として県内の施設・団体・個人に資する活動を行っているか	3	
	②	全国の博物館等の自然科学系分野の活動に協力しているか	3	
	③	県内の公共施設が行う展示・企画に協力しているか	3	
	④	職員の専門分野を活かして専門的な知識を情報発信をするとともに、レファレンスに的確に応えているか	3	
	⑤	行政等の文化財保護（天然記念物）・自然保護に関する組織の調査に協力し、専門的な立場から指導・助言を行っているか	3	
	⑥	県内の研究機関、研究者等と情報交換等を行い、その成果を県民に還元しているか	3	
学校の連携	①	学校教育における博物館の活用を促進するための研究・取組を行っているか	3	
	②	博物館資料を活用した強みを生かした取組を行っているか	3	

II 目標や取組の設定

1 中期的な目標及びそれに関する取組の設定

【中期的な目標】

(NO)	(目標)	(取組み期間)
①	計画的な資料整理の重点化	令和5～9年度
②	資料活用促進のための環境整備	令和5～9年度
③	主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の 拡張・深化	令和5～8年度
④	調査研究の充実	令和6年～10年度

【取組】

- ① 計画的な資料整理の重点化
 - ア 館有資料所在点検実施計画の見直しと実施
 - イ 収蔵スペースの確保
配架の見直し等による効率的な収蔵計画の推進
- ② 資料活用促進のための環境整備
 - ア データベース公開
 - イ 資料画像化
 - ウ 計画的な常設展示更新
- ③ 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化
 - ア 開発プログラム実施
 - イ 令和8年度「文化庁 Innovate Museum 事業」採択に向けた取組
- ④ 調査研究の充実
 - ア 長瀬自然遺産調査の実施
 - イ 基礎的調査研究の環境整備

2 単年度指標による目標値と達成値

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値	達成率	目標値の設定根拠
				達成値		特記事項
1	使命1-6 全般的活用	利用者数	年間入館者と アウトリーチ参加者数他	92,000人	101.4%	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				93,276人		*1
2	使命2 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	70,000人	108.1%	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				75,673人		*1
3	使命1-6 全般的活用	利用者数	1日当たりの利用者 数	295人	101.4%	(利用者数)÷開館日数(312日)
				299人		
4	使命2・3 情報発信・活用	デジタル情報の 利用状況	HPアクセス数	1,546,000件	134.3%	基準値：836,082件 目標参考値：1,545,697件
				2,076,282件		
5	使命2 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	120件	115.8%	基準値：104件 目標参考値：117件
				139件		
6	使命2・6 活用・利用提供	経営努力	観覧料及び 事業等収入額	11,818千円	95.5%	*当該年度予算計上額
				11,292千円		

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値	達成率	目標値の設定根拠
				達成値		特記事項
1	使命1 データベース機能	整理・保管	年間の点検資料数	26,000点	101.0%	点検実施計画による
				26,254点		中期的な目標による取組
2	使命1 データベース機能	整理・保管	年間資料画像化点数	1,000点	100.0%	中期的な目標による取組
				1,000点		
3	使命1 データベース機能	調査研究	長瀬自然遺産 現地調査日数	41日	180.5%	調査計画による
				74日		中期的な目標による取組
4	使命1 データベース機能	調査研究	県内の自然史 に関する論文数	24件	91.7%	基準値：20件 目標参考値：24件
				22件		*3
5	使命2 情報発信機能	データベース公開 (目録情報)	S-netへ提供した 資料点数	8,000点	28.8%	データベース公開計画による
				2,300点		中期的な目標による取組
6	使命2 情報発信機能	データベース公開 (解説・画像を含む)	HPで公開した資料点 数	90件	106.7%	データベース公開計画による
				96件		中期的な目標による取組
7	使命2 情報発信機能	常設展示	更新件数	3件	33.3%	常設展示更新計画による
				1件		中期的な目標による取組
8	使命3 学習支援・人材育成機能	学校教育支援	開発プログラムの 実施校数	13校	84.6%	中期的な目標による取組
				11校		
9	使命4 連携・交流・啓発機能	協働・地域振興	各団体との 共催・協力イベント	6件	200.0%	基準値：5件 目標参考値：6件
				12件		*3

(全館共通項目)

*1 利用者数＝常設展観覧者数(常設展観覧者数＝特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数)+無料入館者数+アウトリーチ参加者数+講座・講演・イベント参加者数+資料貸出・特別利用件数+レファレンス件数+動画再生回数+SNSリアクション数(第4期教育振興基本計画の目標指標による定義)

*2 基準値：過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値、目標参考値：基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値、目標値：目標参考値の1の位を繰り上げた数値

※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

(館別独自項目)

*3 基準値：過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値、目標参考値：基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値、目標値：目標参考値を踏まえ各館が独自に設定した数値

3 取組みの概要

1 中期的な目標に係る取組

(1) 計画的な資料整理の重点化

- ア 館有資料所在点検 26,254点/目標26,000点。
- イ 第1収蔵庫(地質系標本)について、収蔵スペース確保のための配架計画(案)を作成し、効率的な収蔵ができるようカゴ台車による収蔵方法を試行した。

(2) 資料活用促進のための環境整備

- ア 国立科学博物館が中核となってインターネット公開している自然史標本情報データベース(s-net)へ、当館の新規登録標本情報2,300点のデータを提供した。
- イ 資料画像化 1,000点/目標1,000点
- ウ 地学展示ホールにおいて、コーナータイトルパネルを新規設置。
メガロドン展示ケースのLED化を実施。

(3) 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化

- ア 動物分野のコンテンツ(学校教育支援プログラム・貸出用標本等)を製作した。
- イ 令和8年度「文化庁 Innovate Museum 事業」申請に向け、「自然の博物館学校教育支援プログラム」案を作成し、模擬授業による検証を行うとともに、教員や理科教育や特別支援教育の知見を有する専門家によるアドバイスを得た。

(4) 調査研究の充実

- ア 長瀬自然遺産調査について、計画に基づき調査を実施した。
- イ 基礎的調査研究の環境整備については、業務の一部として各職員が調査研究計画を作成し、館内での承認を得て実施している。

2 常設展の充実

- ・岩畳を紹介する「長瀬の自然コーナー」の季節に応じた定期的交換。
- ・やさしい解説パネルを追加(実習生作成の解説パネルの設置)

3 特別展、企画展等の実施

(1) 企画展

- ・新収集品展(6/28~10/13、32,634人)
- ・植物たちの生き残り術 こうして植物たちは身を守る(3/7~6/14、開催中)

(2) 特別展

- ・秩父鉦山の面影~ニッチツが所有した希代の鉦物標本群~(3/8~6/15、18,699人)
 - ・群れる鳥(10/25~2/23、20,369人)
- 川の博物館で開催
- ・昆虫いろいろ~標本からみえる昆虫の世界~(7/12~9/15、34,610人)

(3) パネル展

- ・埼玉の森をつくる木たち(2/4~6/15)
- ・標本作成の技 地質編(6/18~10/6)
- ・埼玉のきのこ(10/7~1/25)
- ・古秩父湾 国天然記念物指定10年のあゆみ(1/31~6/14、開催中)

- (4) 小学校巡回企画展
- ・寄居町立用土小で実施 (12/3～12/12、253人)
 - ・寄居町立折原小で実施 (1/26～2/5、128人)

4 講座・講演会等

- (1) 自然史講座
- ・講演会「秩父鉾山の鉾物」 (5/10、77人)
 - ・身近なコケを調べよう (6/15、32人)
 - ・研究発表会 (8/23、23人)
 - ・化石のレプリカづくり (9/20、17人)
 - ・松ぼっくりや木の実などで動物オブジェをつくろう (12/20、9人)
 - ・ハクチョウのモビールを作ろう (1/31、13人)
 - ・地衣類観察入門 (3/8、20人)
- (2) 観察会
- ・春の岩畳観察会 (4/20、23人)
 - ・ライトトラップで夜の昆虫観察 (6/21、30人)
 - ・美の山公園植物観察会 (10/26、10人)
 - ・古秩父湾観察会 (11/8、16人)
 - ・鳥はなぜ集まるのか (12/13、60人)
 - ・動物園でうんちの観察 (1/17、17人)
 - ・飯能河原で石の観察 (2/14、31人)
- (3) 講師派遣 (社会教育団体等) 41回、2,086人

5 学校との連携

- ・体験学習 18回、791人
- ・学校への出前授業 14回、917人
- ・学校利用受入れ 131校、6,020人
- ・虎岩 10校、563人
- ・物品貸出 9校
- ・小学校巡回企画展 2校、寄居町立用土小：253人、寄居町立折原小：128人【再掲】

6 関係機関との連携

- (1) 長瀨町観光協会との連携
- ・青もみじライトアップ (4/26～6/8)
 - ・長瀨観光の日 (7/16) 事業協力
 - ・もみじライトアップ (11/12～11/30)
 - ・県民の日イベントのスタンプラリー景品の提供 (11/14)
- (2) 上長瀨駅及びその周辺活性化委員会との連携
- ・県民の日イベントに体験ブース及びキッチンカーを出店 (11/14)
- (3) 秩父鉄道との連携
- ・「県民の日」記念フリー乗車券の情報を県民の日イベントのポスター・チラシに掲載

(4) 長瀨町教育委員会との連携

- ・岩畳リフレッシュ大作戦実施に先立ち、国指定名勝及び天然記念物「長瀨」について希少生物保全及び生物多様性の関する知見を提供（4/23、1/13）
- ・県民の日イベントのスタンプラリーの共同実施（11/14）

(5) 長瀨町との連携

- ・岩畳リフレッシュ大作戦への職員派遣（6/3、1/13）
- ・県民の日イベントに出展及びスタンプラリーの共同実施（11/14）

(6) 寄居町教育委員会との連携

- ・巡回企画展を実施【再掲】

(7) 秩父地区文化財保護協会古秩父湾作業部会との連携

- ・令和6年度古秩父湾フォト&書コンテスト入賞作品巡回展示の実施（4/22～5/25）
- ・令和7年度古秩父湾アート&書コンテストの実施（10/18～12/21）
- ・国天然記念物指定10周年記念トークイベント「古秩父湾座談会」の実施（3/1）

(8) ジオパーク秩父との連携

- ・日本ジオパーク再認定審査への協力

(9) 埼玉県博物館連絡協議会

- ・「埼玉県博物館連絡協議会秩父地域館スタンプラリー」の実施（7/19～8/31）

(10) 総合教育センターとの連携

- ・総合教育センター内に「博学連携ブース」を設置

(11) その他

- ・「第75回全国植樹祭（主催：（公社）国土緑化推進機構・埼玉県）」おもてなし広場に展示ブース「埼玉の森をつくる木たち」出展（5/25）
- ・「第14回埼玉フェア（主催：埼玉県）」に体験ブース「化石のレプリカづくり」出展（9/7 参加者138名）
- ・「Kids festa（主催：深谷テラスパークエリアマネジメント）」に深谷市産出の埼玉県指定天然記念物カルカロドン メガロドンについての展示や「化石のレプリカづくり」体験ブースを出展（10/12 参加者222名）
- ・「秩父市観光基本計画に関わるワークショップ（主催：（一社）秩父地域おもてなし観光公社）」への参加（10/14, 12/16）
- ・「バーチャル埼玉『巨大ザメ！メガロドン見学キャンペーン』（県民広報課）」への協力（12/23～2/23）

Ⅲ 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

- 中期的な目標に関する取組は、概ね順調に実施できた。
 - ① 計画的な資料整理の重点化
 - ア 館有資料所在点検について、目標の 26,000 点を達成した。
 - イ 第1収蔵庫（地質系標本）について、収蔵スペース確保のため、計画通り配架計画（案）を作成し、カゴ台車による収蔵方法を試行した。整理の方向性が定まったため、収蔵庫内の収蔵状況は、少しずつ改善が図られている。
 - ② 資料活用促進のための環境整備
 - ア データベース公開について、国立科学博物館が中核となってインターネット公開している自然史標本情報データベース（s-net）へのデータ提供を今年度から再開した。当初計画では 8,000 点であったが、S-net の登録再開手続きや、提供データの整理に想定以上の時間を要することが判明したため、今年度の目標から下方修正して 2,300 点の提供とした。
 - イ 資料画像化については、目標の 1,000 点を達成した。
 - ウ 常設展示更新計画
 - 当初の計画では、地学展示ホール及び生物展示ホールのコーナータイトルデザイン案の作成とメガロドンの展示改修の 3 件を予定していた。作成手順を見直し、今年度は地学展示ホールのコーナータイトルの作成・設置を優先させ、次年度に生物展示ホールのコーナータイトルデザイン案の作成を行うこととした。
 - また、メガロドンの展示改修についても、資料名称変更の可能性があるため、今年度は展示ケースの照明の LED 化に留め、次年度送りとした。
 - ③ 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化
 - ア 動物分野のコンテンツ（学校教育支援プログラム・貸出用標本等）を新たに製作し、これまで製作した開発プログラムを含め 11 校で実施したが、学校からの実施希望が予想を下回り、年度当初の目標（13 校）には達しなかった。
 - イ 令和 8 年度「文化庁 Innovate Museum 事業」申請に向け、「自然の博物館学校教育支援プログラム」案を作成し、模擬授業を行って検証するとともに、教員や専門家によるアドバイスを得た。文化庁のヒアリングを経て、令和 8 年 3 月に申請した。
 - ④ 調査研究の充実
 - ア 長瀬自然遺産調査
 - 計画を上回る調査が実施できている。
 - イ 基礎的調査研究の環境整備
 - 基礎的調査研究を業務と位置づけることにより、調査研究が順調に行われた。

- 利用者数(年間入館者及びアウトリーチ参加者数他)について、当初計画にはなかった「イオン埼玉フェア(主催:埼玉県)」や「Kids festa(主催:深谷テラスパークエリアマネジメント)」への参加、夏休み期間や県民の日事業実施時に効果的な広報を行ったことなどにより、年度当初の目標(92,000人)を達成した(年度末R6:92,935人→R7:93,276人)。
- 年間入館者数についても、年度当初の目標(70,000人)を達成した(年度末R6:68,277人→R7:75,673人)。
- 各団体と共催・協力事業について、目標(6件)を達成(年度末12件)。
特に、県民の日事業「自然の博物館秋まつり」では、“自然の博物館友の会”及び“上長瀨駅その周辺活性化委員会”との連携に加え、今年度新たに“長瀨町産業観光課”“長瀨町教育委員会”“長瀨町観光協会”“秩父鉄道(株)”と連携して実施、1,425人(R6:929人)の参加者数となった。

(2) 課題と対応の方向

○ 中期的な目標に関する課題と対応の方向

令和4年度、当館が重点的に取り組むべき課題として、課題解決に向けた目標と取組期間を設定(3年～5年計画)した。引き続き計画に従って取組を進めていく。

① 計画的な資料整理の重点化(5年計画)

館有資料の所在点検は、資料データベースを公開する上での前提となるため、よりスピード感をもって進めていく必要がある。

第一収蔵庫のスペースの確保については、計画に沿って整理を進め、順次カゴ台車の確保と資料の再配置に努めていく。

② 資料活用促進のための環境整備(5年計画)

資料データベース公開及び資料画像化については、方針に則り、着実に進めていく。

常設展示については、次年度送りとした生物展示ホールのコーナータイトルデザイン案作成、メガロドン展示解説の更新を着実にすすめるとともに、基本方針を基に、計画を具体化していき、予算の確保を検討していく。

③ 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化(4年計画)

令和8年度の文化庁の Innovate MUSEUMU 事業が採択された場合には、「すべての子供に実体験を届ける自然の博物館学校教育支援プログラム」案に基づきプログラムを充実させる。

④ 調査研究の充実

長瀬自然遺産調査について、更なる予算確保に努める。

基礎的調査研究については、公費による研究費の確保については十分とは言えないが、引き続き業務と位置づけ、研究時間の確保に努める。

○ 中期的な目標以外の課題と対応の方向

利用者数、特に入館者及びアウトリーチを確保するためには、魅力的な特別展・企画展の開催や観察会等のコンテンツの充実はもちろんのことであるが、観光客をいかに取り込めるか、地域との更なる連携強化の取組みがこれまで以上に必要となる。

2 外部評価委員等によるコメント

とにかく“やること”が多すぎるし、目標が高すぎるのではないかと感じる。“あれもこれも”ではなく、目標をある程度“絞る”ということが大切だと思う。

常設展の改修、特別展や企画展、学校支援活動や野外観察会など、計画的に実行されていることは大いに評価できるが、学芸員の基本的な仕事の一つである調査研究がやや心配。

昨年も指摘したが、収入額が低いのも気になる。観覧料を上げることで、かえって収入額が減る(入場者数が減る)予測の根拠があるのならやむを得ないが・・・。

重要なことは、学芸員の活動のこと。自然の博物館の活動報告を見て、資料の整理、社会教育活動、あれだけの展示に、なおかつ研究も、それ全部やっている。本当に大変なことで、あんまり性急に成果を求めず、長い目で見ていったほうがいいのではないかと思います。

博物館活動のコーナーを設けて、子どもたちが博物館を楽しんでいる様子を動画で紹介したり、博物館の取組みを“これからこういうことをやりますよ”と楽しく紹介してみたらどうか。

収蔵庫は博物館の心臓部分。第1収蔵庫（地質系標本）の収蔵スペース確保のために導入する“カゴ台車”については、やむなく導入する方法ではないかと推察する。収蔵庫の拡張についてしっかり打ち出すべき。

観覧料200円。ワンコインにならぬ、ツーコイン。これも宣伝で使える。

展示については、多くの予算をかけられているわけではないが、資料もいいし、特に、この周辺（長瀬）ともすごく関係も深い。しっかり宣伝すれば、もっと観覧者が増えると思う。

体験学習、出前授業が少ないことが残念である。校長会を活用するなどして、体験学習等の実績が増えることを望む。そうすることで、理科教育も進んでいくと思う。

また、“innovate museum 事業”について期待しているので、予算がつくつかないにかかわらず、是非進めていただきたい。

自然の博物館の学芸員による岩石の講座が、本当に面白かった。こんなに面白いコンテンツがあるのに、博物館だけでなく観光協会もそのことを観光客に訴えかけられてない。

ライトアップのときのメガロドンが、怖くて本当によかった。怖いって本当に重要。“うわっ”てなる。“もう1回見たいな”と思う。

引き続き、観光協会との連携をお願いしたい。

“自然の博物館は元気がいいよね、活発だよ”と、ひとときわ明るい印象であったが、今回、実際の取組みの様子を聞いて、色々な方面で前向きに取り組んでいる様子がわかった。

展示やリーフレット等の印刷物を見て、デザインにもこだわっているし、解説等も誰にもわかりやすく書かれていて、現場の工夫が凝らされている印象を抱いた。